

◆適正な水管理と適期追肥で良品質米の生産を目指そう！◆

今年は生育期間中、好天に恵まれたことで品種によりバラつきはあるものの、生育はおおむね順調に推移しております。

これから中干しに入りますが、幼穂形成期に入る7月中旬までには中干しを終了し追肥を行いましょう！また、中干し終了後は稲が寒さに最も弱くなる時期であるため、きめ細かな水管理で収量確保に努めましょう。

1. 生育状況(当組合生育観測圃の平均) → おおむね順調です！

品種 (6月30日現在)		草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)
つがるロマン	R3	45.4	18.0	8.4
	平年	43.9	19.8	8.6
まっしぐら	R3	52.1	18.7	8.3
	平年	47.1	17.9	8.1
青天の霹靂	R3	49.6	16.5	8.1
	平年	46.9	18.0	8.0



2. 中干しの実施

これから中干しに入りますが1株当たり20本以上の有効茎数が確保でき、高温で晴天が続くときに実施しましょう。また、生育が遅れている場合や、平均気温が20℃を下回るような低温のときは中干しは見合わせましょう。

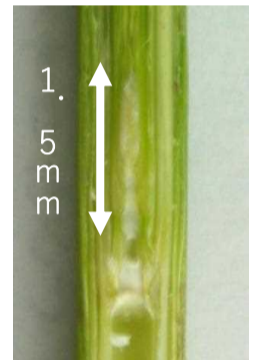
田面に軽く亀裂が入るまで行い、幼穂形成期(平年7月13日頃)までに終わらせるようにしましょう。

3. 適期追肥

(1) 幼穂形成期(幼穂 1.5 ミリ程度 右の写真参照)を確認したら、生育量や葉色を見ながら追肥を実施しましょう。

- ・葉色が薄い場合 → 追肥の実施
- ・葉色が濃い場合 → 7~10日後にもう一度確認し葉色が薄い場合 → 追肥の実施

(2) 減数分裂期になっても葉色が淡くならない場合や、分けつが多い場合は食味・品質低下の可能性があることから、追肥を中止しましょう！



	幼穂形成期前 ~7月12日頃(平年)	幼穂形成期 7月13日頃(平年)	減数分裂期 7月23日頃(平年)	減数分裂期以降 7月24日頃~(平年)
追肥の効果	▲過剰な分けつの発生 ▲生育の遅れ ▲倒伏の危険増大	← 追肥適期 →		▲増収効果が低い ▲米の食味低下
		○穂数確保 ○籾数確保	○籾数確保 ○玄米肥大促進	

4. 7月中旬~8月上旬の水管理

この時期の水管理で収量・品質に大きな差が出ます。天候に応じた水管理を行い、良品質米を目指しましょう！

時期	水管理	目的
幼穂形成期から10日間 【花粉の細胞数が決まる時期】	気温に関係なく、暑くても寒くても 10cm程度の深水	健全な花粉を増やす
穂ばらみ期(7月23日頃~) 【低温に最も弱い時期】	寒い日...15~20cmの深水 暑い日...浅水、時々入れ替え	不稔発生防止 根の活力維持
出穂開花期(8月2日頃~) 【水が最も必要な時期(花水)】	寒い日...10cmの深水 暑い日...5~6cm、時々入れ替え	開花・受精促進 根の活力維持

5. 病害虫防除&雑草対策

- (1) 広葉雑草が残っている水田が見られます。雑草に応じた後期除草剤を散布しましょう。
- (2) 斑点米カメムシには今の時期の草刈りが重要です。7月20日頃までに一度草刈りを行い、耕種的防除を心掛けましょう。

草刈時期	7/20頃まで	イネ科雑草が開花・結実する前に刈り取る。
草刈中止時期	7/20頃~8/31頃	カメムシを水田に追いやることになりますので実施しない。

